

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	56	学校名	益田清風高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	【教育目標】理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。 【めざす学校像】地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 1.進路実現に向けて、よく勉強する学校 2.部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 3.端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通じて、進展する社会に主体的に対応できる生徒 ・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒 ・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 ・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成 ・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身に付け、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身に付けたい生徒 ・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身に付けたい生徒 ・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通じて、理解力、思考力、協働力、探究力を身に付けたい生徒	
学校の抱える課題	・「総合的な探究の時間」の充実度が他の項目と比べると否定的評価の割合が高い。 ・不登校や発達障がい等の対応について、生徒理解が不十分な面があった。特性を理解し、学校、家庭及び外部機関との連携を密にすることが大切である。 ・安易な進路選択をする生徒や、なかなか進路を自分のこととして考えられない生徒が一定数存在する。		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	・育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の実践 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」をICT活用によって、一体的に充実させる。	
	進路指導	・情報提供・ガイダンス機能の充実 ・キャリア教育の推進	
	生徒指導	・自他の人権や生命を尊重する意識の確立 ・問題行動等(いじめを含む)の未然防止と事後指導の充実	
	特別活動	・学校行事、部活動、生徒会活動を通じた主体性の育成と、課題解決能力を育成する。 ・学校と地域のつながりを大切にし、地域から信頼される学校を目指す。	

年 度 目 標				年 度 末 評 価(自 己 評 価)			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D
学習指導	①「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の実践」として、生徒の能力を最大限引き出す評価方法について研究し、評価から指導の改善に取り組みます。	26 施策Ⅳ-26	①観点別評価が生徒の学力向上につながったかを成績不振生徒数の減少から判断する。	各教科ごとに観点別評価の実践方法と内容の提示を受け、学期単位で評価から指導の改善を教科単位で取り組む。成績不振の生徒数は昨年度と比較し横ばいで推移の状態にある。	B	『生徒への授業アンケート』において、「意欲的に学習に取り組んでいる」、「授業に積極的に参加している」に当てはまると回答した生徒は、全年を通じて平均80%以上であった。また、『生徒および保護者等を対象とするアンケート』の生徒のアンケート結果においても、「先生の授業は丁寧でわかりやすい」、「ICT機器を有効に活用した授業が行われている」の肯定的な評価が80%以上であった。「習熟度別授業や少人数授業があり、学習の理解につながっている」の肯定的な評価も高く、学習指導への感度はアンケート結果から読み取れる。主体的に、協働して課題解決ができる生徒の育成に様々なアプローチから今後も取り組みたい。	
	②個々の生徒が主体的に目標に向けて深く学ぶ学習支援と集団ならではの学びをICT機器の活用によって一体的に充実させることで学びの深化をはかります。	8 施策Ⅱ-8	②ICTの有効活用に関するアンケートで、昨年度比を上回る。	ICT機器の活用により、知識・技能の定着、グループワークを通した思考力・判断力・表現力の育成につながる授業の実践を推進。利活用促進のため環境整備も組織的に実施。			
	③地域との連携や教科横断的な授業及び家庭学習に結び付けた研究をさらに進め、生徒の探究心の高揚や進路選択につながる実践内容の検討を推進します。	13 施策Ⅱ-13	③生徒による授業評価を実施し、授業への満足度が平均80%以上となる。	様々な提案や地域資源を活用した実践を学科単位で取り組む。生徒の様々な学びが、地域社会への貢献につながる、進路選択につながる循環になりつつある。			
進路指導	①進路ガイダンス、保護者対象進路説明会、職場体験学習、企業見学会を実施します。	4 施策Ⅰ-4	①アンケートの進路関連項目の評価が向上する。また、行事ごとに実施するアンケートで生徒及び講師等の評価が向上する。	下呂市、地元企業、上級学校等の協力により、年間計画の通り、ガイダンス等の行事を終えることができた。アンケート結果も良好である。	A	事前に希望調査を行い、生徒のニーズに合う形で各行事を実施できた。今後は事前学習・準備をより充実したものにしていきたい。	B
	②キャリア・パスポートを活用し、学校生活を通じ、進路及び卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。	13 施策Ⅱ-13	②生徒が学校生活で目標を定め、行動を起こし、それを振り返ることで、自らの成長を実感することができる。	キャリアパスポートを紙ベースからICT教材に変更したことで、より良い振り返りができた。			
	③地元社会人講話や地元企業ガイダンスを実施し、広い視野をもって地域に貢献する資質を養成します。	4 施策Ⅰ-4	③地元就職者や上級学校卒業後のUターン就職者が増加する。	「地元」、「地域」というキーワードが定着しつつあり、地元就職者も増加した。			
生徒指導	①登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、授業規律などの生活指導において、職員間の情報共有を図り、生徒に指導します。	1 施策Ⅰ-1	①規範意識をもち落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができています。	①毎朝10～15人程度の教員で登校指導を行い、生徒の様子を日々観察することで、生徒の細かな内面的変化に気づき、指導に生かすことができた。	B	令和7年度以降、制服の着こなしに関して一部変更を行う予定である。それに際して、生徒や保護者の理解が得られるよう、生徒会とも協力し進めていく必要がある。	
	②いじめ調査や生徒観察から得た情報を、職員間で共有を図り、いじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル(SNSの正しい使用等)意識を高めます。	3 施策Ⅰ-3	②いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。もしくは、ごく些細な初期のいじめ問題でも見逃さず、早期対応ができています。	②年5回のいじめに関するアンケートを実施し、生徒からのSOSに対して常にアンテナを張り、大きないじめになる前に対処することができた。また、11月には情報モラルLHRを実施し、情報モラルにおけるリスクとその確率について考える授業を行った。			
	③問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員や外部専門家等との連携を密にし、早期発見・早期対応・解決に努め、事後指導まで粘り強く指導します。	19 施策Ⅲ-19	③情報モラル啓発活動を積極的にを行っている。	③いじめ問題や不登校傾向のある生徒について、積極的に外部専門家と協力し、助言を仰ぐことで、生徒の生活の改善につなげることができた。			
特別活動	①学校行事や部活動、生徒会活動に積極的に参加し、自己肯定感や自己有用感を高める。	1 施策Ⅰ-1	①学校行事等の後に実施するアンケートで70%以上が肯定的な評価が得られるようにする。	①生徒会が活動の牽引役となり、学校行事を成功させるため努力を重ねている。また、部活動では生徒たちは心身を鍛錬し、人間的にも大きく成長している。	B	①生徒会行事でのスマートフォン利用が認められた。また、身だしなみルールの見直しに向けた生徒議会、職員会議への提案を行った。生徒中心の活動ができるよう、指導の質を高めたい。 ②生徒会行事が成功したこと、クラスとしての団結力が高まった。文化祭準備等の経験で学んだことを、今後の学校生活全体へ広げていけるようにしたい。 ③地域の方々と協力した活動ができています。本来やるべき学業が疎かにならないよう、活動のバランスに配慮する必要がある。	
	②学級活動を通じて、他者を尊重し状況に応じた対応ができるようにする。	2 施策Ⅰ-2	②生徒及び保護者アンケートから70%以上の肯定的な評価が得られるようにする。	②文化祭準備等の活動を通じて、生徒たちがお互いを認め合い、協力して活動に取り組むことができています。			
	③地域との交流を積極的に行い、地域愛の育成と地域活性化に協力する。	7 施策Ⅰ-7	③地域の行事参加率の向上を目指す。	③環境厚生課が中心となって、生徒会として暑中見舞・年賀状送付などの福祉活動と連携した活動を行っている。			

来年度に向けての改善方策等

実施日:令和7年 1月 29日

学校関係者評価

実施日:令和7年 1月 29日

・地域を活用し、生徒が地域課題の解決に主体的に取り組む力を育成するため、探究的な学びを深化させる必要がある。具体的には、地域住民や専門家を講師に招き幅広い知識を提供することや、地域の企業や団体と連携し、職場体験やインターンシップ等を実施することが考えられる。 ・生徒一人ひとりが地域社会の一員として自覚し、地域リーダーとして活躍できるよう、地域貢献活動への参加を促進する。地域行事やボランティア活動への参加機会を設け、地域住民との交流を深めることで、生徒の共生意識を醸成し、リーダーシップ能力を育成する。 ・学校、地域住民、企業、各団体等が連携して、生徒が主体的に地域連携活動を企画・運営できるような体制を整備する。今後は、学校運営協議会を主体として、積極的に情報共有や意見交換を行うとともに、地域コーディネーター等を配置することで、地域連携教育を円滑に進める。 ・行事や学校の取り組みを校外に広く発信するため、広報活動を強化する。ウェブサイトやSNSを活用した情報発信、広報誌の発行、メディアとの連携などを通じて、地域住民への認知度向上を図る。 ・地域連携活動を通して、生徒が自己有用感を高められるよう支援する。ボランティア活動情報の提供や学習成果発表会の開催等、地域への広報を通して生徒の貢献を促し、自己肯定感を育む。 ・中学生や小学生と連携し、高校生姿を見せる機会を設ける。合同イベント開催や高校生による学習支援、高校生活紹介などを通じて、中学生・小学生の高校進学への意欲を高めるとともに、高校生の社会性を育てる。	・学習成果発表会を中学生向けに開催し、生徒自身の生の声で高校の魅力を伝えることが効果的ではないか。 ・地域に出て活動する機会を設けるべきではないか。 ・地域を教育資源として活用し、学業だけでなく、地域と共に成長できる機会を提供してほしい。 ・清風高校で身に付けたい力を、地域全体でサポートできる体制を構築してほしい。 ・中学校1年生は小学校で後輩をまとめる経験をしてい中学3年生は校則などについて議論したりしているので、1年生を「一番下」として扱うのはもったいない。 ・学習成果発表会を中学2年生に見せるなど、小・中学校との情報交換や交流を密にすることで、高校の魅力を効果的にアピールできるのではないかと。 ・炊き出し等のイベントに高校生が主となり、小・中学生と交流することで、高校生の姿を見てもらう機会にしてほしい。 ・中学1年生を対象としたオープンスクールを開催し、高校の学科などの取組についてはやい段階から保護者にも情報提供してほしい。 ・中学校での企業体験先企業を高校でも同じ企業で継続するようにし、生徒の地元就業意識を高めてほしい。 ・大学や専門学校との連携を強化し、視察機会を増やすことで、生徒の進路選択を支援してほしい。大学研究室との連携等も積極的に行ってほしい。 ・高校生が中学生の教室へ行って指導する機会を設け、生徒同士の学びを深めるとともに、高校生にとっても良いアピールになるのではないかと。 ・勉強だけでなく、部活動を目的として高校を選ぶ生徒もいるため、部活動への参加機会を増やしてほしい。 ・ICT活用について、活用方法だけでなく実施評価も授業に組み込まれており評価できる。 ・授業内容や活動は素晴らしいので、地元の中学生へアピールする機会を設けてほしい。 ・「うまいもん甲子園」で購入した商品は、生徒が楽しみながら作った様子が伝わってきた。大変おいしくいただいた。
---	---